

学習院大学硬式野球部について（概要・現状）

2023年6月
学習院野球部OB会

<概 要>

1. 学習院大学硬式野球部の歴史

学習院野球部は、今年で創部134年を迎え、日本でも屈指の歴史・伝統のある体育会運動部です。嘗ては旧制高校時代のインターハイ全国優勝や東都大学連盟1部リーグでの優勝等、輝かしい時代があり、東都大学でも強豪チームとして1・2部に君臨し、活躍していました。

しかしながら、近年は3部リーグに雌伏しています（1部17シーズン・2部20シーズン在籍）。

2. 現在の指導体制

学習院大学野球部は、長年続いた低迷を打開するため、2018年秋季リーグ戦終了後、石井潤一氏（福岡県立筑紫丘高校ー学習院大学）を監督に迎えました。また、昨年秋より2部昇格時の主将で四番打者の西尾誠氏（学習院高等科ー学習院大学）と投手コーチとして2部時代のエース投手、栗山隆二氏（浅野高校ー学習院大学ー日本生命野球部）を迎え、指導体制を充実いたしました。

3. 卒業後の進路

現在、我が野球部では、現場・OB会が一体となり、“伝統の復活”を合言葉に、立て直しを図っています。伝統を背にOB会組織もより一層の充実を目指し、きめ細かい心配りをするため、選手一人ひとりと向かい合っています。普段の練習・学生生活のみならず、就職等の相談・支援も行っています。

卒業後の進路・就職面では、毎年、本人の希望に沿った形で、優良企業を中心に、公務員や教員となり、社会でも大活躍する学生を多く輩出しています。一般企業への就職では、平均的に、一般学生よりも早期に決まっています。また、教職単位を取得し、高校教員となつて、高校野球指導に当たっているOBも多数おります。

4. グランド環境の利便性

練習グラウンド（東都大学連盟指定球場）は目白のキャンパス内にあり、環境にも大変恵まれ、選手達は、練習に授業にと、ユニホーム姿で学内を行ったり来たりしており、充実した青春時代を謳歌しています。

学習院野球部は、“学生の本分は勉強である”という考えを貫き、野球のみならず、学業も決して疎かにはしません。入部いただければ、決して期待を裏切る事のない運動部であると自負しています。

<現 状>

1. 東都リーグにおけるチームの位置

現在、学習院大学野球部は東都大学野球連盟3部に所属しています。今春のリーグ戦は、下表のとおり6勝5敗 勝点3で3位となりました。

チーム	大正大	帝京平成	学習院	成蹊大	順天大	一橋大	勝	負	分	勝率	勝点
大正大	—	○○	○○	●○○	○○	○○	10	1	0	0.909	5
帝京平成	●●	—	○○	●○○	●○○	○○	8	4	0	0.667	4
学習院	●●	●●	—	○○	○●○	○○	6	5	0	0.545	3
成蹊大	○●●	○●●	●●	—	●○●	○○	5	8	0	0.385	1
順天大	●●	○●●	●○●	○●○	—	○●●	5	9	0	0.357	1
一橋大	●●	●●	●●	●●	●○○	—	2	9	0	0.182	1

4/8 本院 9－4 順天大 4/9 本院 0－4 順天大 4/22 本院 7－1 順天大

4/16 本院 4－0 一橋大 4/23 本院 2－1 一橋大

4/29 本院 5－2 成蹊大 5/3 本院 1－0 成蹊大

5/6 本院 1－20 大正大 5/7 本院 3－7 大正大

5/27 本院 4－7 帝京平成 5/28 本院 0－2 帝京平成

表彰選手

大菌投手：最高防御率 1.31

安西選手：外野手ベストナイン 打率0.361 5位

コロナも収束を迎えつつあったが、春合宿が中止となり個々の基礎体力アップやスキルアップが出来ないまま春季リーグ戦を迎えることとなった。コロナでの制限もやっと緩和され4年ぶりに本院グラウンドでの順天堂大戦が有観客による開幕となった。多くのOB、保護者が来場されての試合となり盛り上がった春季リーグ戦が始まった。初戦の順天堂大戦、一橋大戦、成蹊大戦と順調に勝ち点を挙げたが、大正大戦、帝京平成大戦に連敗して最終的に勝ち点3で3位という残念な成績で春季リーグ戦が終了した。

今季は投手陣が頑張ったものの野手陣がそれをカバー出来なかったことが3位という結果となった。投手陣は最優秀防御率を受賞した大菌投手(3年)が1.31、由良投手(4年)が2.55、チーム防御率3.857であったが、チーム打率が0.208という低迷で、ここ一番のバント失敗や得点圏でのタイムリーも少なく、3割打者は安西選手(3年)の一人のみ。0.250以上も安西選手を除いては一人と決定打が出ずに波に乗ることが出来なかった。

大正大学や帝京平成大学はツーストライク後にはバットを一握り短くして粘り強い打撃をしたり、きっちりと送りバントを成功させていたが、本院の野手陣にはそのような姿勢も工夫もなく残念ながら漫然と打撃をしていた。二部を目指すには見習うべき点であることを選手達にはアナウンスしたので、これからの練習や夏合宿に取り入れ、より一層の個々のスキルアップをはかりチーム力を上げて秋季リーグ戦に優勝、二部昇格を目指します。

2. 選手の構成

現在のチーム構成は、選手58名(4年生9名、3年生10名、2年生16名、1年生23名)、学生監督・学生コーチ4名、マネージャー12名の合計74名で活動しています。今秋は、正に2部昇格を実現すべく、日々練習に励んでおります。上昇基調にある、大変充実感溢れた野球部です。

3. 野球部の活動状況

長年にわたりコーチや広報活動などでチームに携わってきた、石井監督、西尾コーチ、栗山コーチを招聘した結果、チームには活気が溢れ、選手には一層の上昇志向がみられます。

特に、最近では学生監督・学生コーチが中心となり、選手間で練習メニューを考え、毎日の活動を行うことで自主性や責任感が生まれ、活気溢れる野球部になっています。昨春の入替戦での敗戦や今春の悔しい経験した選手たちが、自分たちには何が足りなかったかを全部員に対して指摘して毎日の練習に取り組んでいます。

現在は、長きにわたり続いている低迷(昭和57年秋3部陥落後からこれまで一度も2部に復帰していない)を打開し、2部復帰、更には1部返り咲き、という大きな夢を実現するため、全員が一丸となって活動しています。

4. 学習院大学の方針と野球部の考え方

学習院大学では、体育推薦やセレクションによる入学制度は認められていませんが、それが理由で野球部が弱いというのは、単なる体の良い言い訳でしかなく、それを嘆いていても仕方ありません。それが学校の方針であるならば、その方針に則った形で、真に強い野球部へと再生させ、学生野球チームの範になってゆきたいと考えています。

学習院野球部は、今年で133年、重要な転換点を迎えています。この機会を逃すことなく、必ず日々の練習を結果に結びつけ、伝統を復活させたいと考えています。

以 上